W3M

本科０期１月度

解答

Ｚ会東大進学教室

早慶大世界史

1章　古代オリエント世界

問題

【1】

解答

(1)　④　(2)　④　(3)　②　(4)　③　(5)　③　(6)　②　(7)　①　(8)　④
(9)　①　(10)　③　(11)　②　(12)　③　(13)　①　(14)　②　(15)　③

解説

メソポタミアに興亡した諸国家の流れをまとめた問題。問題文にもある通り，古代メソポタミア史では民族の興亡が激しいので，整理して１つずつ，確実に押さえていく必要がある。

(1)　ここで問われている時代は，シュメール人がウルやウルクなどの都市国家を形成した時代と考えられるから，紀元前３千年紀が正解となる。
(2)　結論からいってしまえば，ラガシュ以外にシュメールの都市国家は選択肢に存在しない。マリもユーフラテス川中流域の古代都市国家であるが，シュメール人ではなくアッカド人が居住していた。ちなみにウンマとはイスラーム共同体（ウンマ）の誤植かと疑いたくなるであろうが，これもれっきとしたシュメール都市で，メソポタミアの南部に位置していた。
(3)　基本問題。楔形文字は粘土板に書かれ，とくに重要な文書は一度焼かれて保存された。
(4)　サルゴン１世はアッカド人でメソポタミア最初の統一国家を樹立した王だが，同じサルゴンでもサルゴン２世はアッシリア帝国の王である。混同しないこと。
(5)　常識問題。『旧約聖書』に伝えられる洪水伝説といえばノアが主人公である。この話の原型は実は『ギルガメシュ叙事詩』にある。『ギルガメシュ叙事詩』は，シュメールの伝承をもとにアッカド語で編集され，古代オリエントへ広まった。
(6)　選択肢の中でシュメール文化の建築様式に該当するものはジッグラトしかない。
(7)　バビロン第１王朝（古バビロニア王国）を担った民族名を答えればよい。
(8)　バビロン第１王朝の最盛期を現出したハンムラビ王は第６代の王であることに注意しておきたい。正誤判定でよく問われる。
(9)　ウル＝ナンム法典はバビロン第１王朝以前にシュメールを統一したシュメール人の国家，ウル第３王朝の王シュルギが定めたといわれる。
(10)　カッシートは民族系統不明，ヒッタイト・ミタンニはインド＝ヨーロッパ語系とされる。
(11)　アッシリアはエジプトを征服し，オリエント統一を達成した。なお，これより約１世紀ほど後に，アケメネス朝もエジプトを征服してオリエントを統一するという似たようなコースをたどった。
(12)　新バビロニア王国の別称がカルデア王国であることからもわかるはず。新バビロニア王国で覚えておきたいのがネブカドネザル２世のバビロン捕囚（前 586 ～前 538）である。
(13)・(14)　この時にアッシリアを滅ぼしたのは新バビロニア王国単独ではなく，メディアとの共同作戦であったことに留意しておきたい。

⑮　アケメネス朝ではキュロス２世（位前 559 ～前 530）とダレイオス１世（位前 522 ～前 486）の業績の違いを押さえておきたい。キュロス２世については，バビロン捕囚からの解放（前 538）とそれに伴うユダヤ教の成立を，ユダヤ人の歴史からもまとめておこう。

【2】

解答

①　モーセ　②　カナーン　③　ペリシテ人　④　ダヴィデ　⑤　ソロモン
⑥　イスラエル　⑦　ユダ　⑧　アッシリア　⑨　ニネヴェ　⑩　リディア
⑪　メディア　⑫　新バビロニア（カルデア）　⑬　バビロン捕囚　⑭　キュロス２世
⑮　ユダヤ

解説

モーセによる出エジプトからユダヤ教の成立までのユダヤ人の歴史をまとめた問題。かなり細かい事項も問われているが，歴史の流れの把握を第一として，問題文を読みながら重要事項を確認しておこう。

①　いわゆる出エジプトをさす。指導者モーセはモーゼとも表記する。
②　「契約の地」という部分からカナーンと答えよう。カナーンはパレスチナ地方の古名で，『旧約聖書』に「約束の地」「乳と蜜の流れる地」と表現されている。ヘブライ王国の領域と考えればわかりやすい。
③　やや難。ペリシテ人は非セム語系民族で，前12世紀にパレスチナの西海岸平野に定着した。当時ヘブライ人もカナーンへの定着を進めていたため，ペリシテ人との間に衝突が起き，ヘブライ人の勇者サムソンもペリシテ人との戦いに倒れた。前６世紀以降，民族的同一性は失われたが，その後も「ペリシテ人の地＝パレスチナ」という名称は残った。
④　問題文の「二代目の王」からダヴィデ王は導けるだろう。
⑤　基本的事項。ソロモンの栄華といえばピンとくるはず。
⑥・⑦　北と南，王国の位置を間違えて覚えてしまわないように注意しよう。地図でその領域も確認すること。
⑧・⑨　前 612 年，アッシリアの都ニネヴェはメディアと新バビロニア王国の連合軍により陥落した。
⑩～⑫　アッシリア滅七後に分立した新バビロニア王国，リディア，メディア，エジプトの４カ国については，それぞれの領域を地図で確認しておくこと。
⑬　バビロン捕囚はユダヤ人およびユダヤ教の成立に大きな意義を持っている。これは現代のユダヤ人とアラブ人の対立に端を発するパレスチナ問題にもつながるので，しっかりと理解しておきたい。因みに問題文にある「シオン」とはイェルサレムの雅号である。
⑭・⑮　キュロス２世により解放されたユダヤ人が再興した神殿は，紀元後 70 年にローマによって破壊された。

【3】

解答

① c 太陰暦 ② b バビロン第１王朝 ③ a メンフィス
④ b アトン ⑤ e ⑥ c 新バビロニア王国 ⑦ c 新バビロニア王国
⑧ e ⑨ a ペルセポリス

解説

古代オリエントに関する正誤判定問題。問題は基本的だが「誤りがない場合は～」という形式に惑ってしまう場合もあるだろう。古代は判明していることが少ないため，入試で問われる内容も国名・民族（語族）・建国者・全盛期・都・宗教などが中心である。下記の解説も読んで知識をきちんと整理し，確実な得点源にしていきたい。

① cが誤り。メソポタミアでは太陽暦ではなく太陰暦が使用された。太陽暦は前4000年以前から使われてきたエジプトの暦。バビロニアでは太陰暦を基本としながら，太陽暦も併用する太陰太陽暦も成立した。

a ジッグラト（聖塔）は『旧約聖書』「創世記」に登場するバベルの塔のモデルとされるもの。ウルのジッグラトが有名。

b メソポタミア文明の多くはシュメール人によって創造されている。楔形文字もシュメール人により作られたもので，象形文字から表音化し粘土板に記された。ドイツのグローテフェントがペルセポリス碑文（ペルシア文字）を研究して解読のきっかけを作り，イギリスのローリンソンがダレイオス１世の事績を刻んだベヒストゥーン碑文をもとに解読した。

d 六十進法もシュメール人に始まり，角度・時間の単位となった。

② bが誤り。セム語系のアムル人が建国したのは新バビロニア王国ではなく，バビロン第１王朝（古バビロニア王国）。バビロンはユーフラテス川の流域にあった古代西アジアの中心的都市。ここを都とした勢力として，アムル人のバビロン第１王朝（古バビロニア王国），民族系統不明のカッシート（バビロン第３王朝），セム語系カルデア人の新バビロニア王国は覚えておこう。

c・d ハンムラビ法典は前18世紀頃にメソポタミア全域を初めてを統一したハンムラビ王が制定したもので，シュメール法（ウル＝ナンム法典・リピット＝イシュタル法典）をもとに作成された。20世紀初めにスサで発見され，楔形文字で記録された全282条の法典で同害復讐法（“目には目を，歯に歯を”）や階級別の刑罰といった特色が見られる。

③ aが誤り。エジプトの古王国の都はテーベではなくメンフィス。古王国時代はピラミッド建造が盛んで，とくに第４王朝期（クフ王・カフラー王・メンカウラー王）のギザの三大ピラミッドが有名である。

d エジプトは閉鎖的地形で他地域侵入しにくい地である。しかし，ヒクソスはエジプト中王国の衰退期（前18世紀頃）から侵入を開始し，中王国の滅亡後，本格的に移住して下エジプトのデルタ地帯を約100年間支配した。

④ bが誤り。第18王朝のアメンホテプ４世が宗教改革で唯一神としたのは太陽神アトン。

a・c エジプトは多神教で主神は太陽神ラーであったが，中王国時代以降，テーベの守護神アモンの信仰と融合してアモン＝ラー信仰が一般的となった。その結果，アモンに仕える

テーベの神官がファラオの政治に介入するようになったため，アメンホテプ４世はテーベ神官の排除をねらい太陽神アトン一神教を強要し，都もテーベの影響を嫌ってテル＝エル＝アマルナに遷都した。しかし次のツタンク＝アトンの時代にはテーベの神官が巻き返し，アモン＝ラー信仰を復興させた。なお，この結果ツタンク＝アトンはツタンク＝アモン（ツタンカーメン）となった。ツタンカーメン王の黄金のマスクならばご存知の方も多いのではないか。

⑤　正解はｅで，すべて正しい。「海の民」は前 13 世紀末～前 12 世紀初めにかけて東地中海一帯の情勢を一変させた民族集団の総称（民族系統は不明）。沿岸部の諸国家・諸都市を攻撃し，その結果ヒッタイトは滅亡，エジプト新王国も衰えた。また，ギリシアにあったミケーネ文明が滅亡した原因の１つとしても「海の民」の攻撃が考えられている。なお，パレスチナの語源とされるペリシテ人（Philistine）は「海の民」の一例と考えられている。

⑥　ｃが誤り。南のユダ王国を滅ぼしたのは新バビロニア王国。カルデアでも可。

ｂ・ｄ　北のイスラエル王国はアッシリアのサルゴン２世（位前 722/ 前 721 ～前 705）によって，南のユダ王国は新バビロニア王国のネブカドネザル２世（位前 604 ～前 562）によって，それぞれ滅ぼされている。なお，バビロン捕囚（前 586 ～前 538）はユダ王国の住民に対して行われた強制移住政策である。彼らは約 50 年を経て，新バビロニア王国を滅ぼしたアケメネス朝のキュロス２世（位前 559 ～前 530）によって解放された。

⑦　ｃが誤り。ミタンニではなく新バビロニア王国（カルデア）。セム語系の勢力で，バビロンを都とし，メソポタミアの“肥沃な三日月地帯”を支配した。４王国中最強の勢力で，ネブカドネザル２世（位前 604 ～前 562）の頃が全盛期。

ａ　エジプトはサイスを都として建設された第 26 王朝。

ｂ　インド＝ヨーロッパ語系のリディアはサルデスを都に小アジアを支配した勢力。前７世紀後半には世界最古の鋳造貨幣を発明・使用し，これがギリシア・ペルシアでの貨幣経済の成立に影響した。

ｄ　インド＝ヨーロッパ語系のメディアはエクバタナを都にイラン高原を支配した。アッシリアを滅ぼしたのはこのメディアと新バビロニア王国である。

⑧　正解はｅで，すべて正しい。

ａ　アケメネス朝はキュロス２世（位前 559 ～前 530）がファールス（パールス）地方のペルシア人を指導してメディアを滅ぼして独立，建国（前 550）した王朝。メディア・リディア・新バビロニア王国を次々に征服していった。

ｂ　アケメネス朝２代目の王カンビュセス２世（位前 530 ～前 522）はエジプト末期王朝（第 26 王朝）も征服し，前 525 年に全オリエントを再統一した。

⑨　ａが誤り。アケメネス朝のダレイオス１世（位前 522 ～前 486）が造営した新都はスサではなくペルセポリス。ダレイオス１世は，東西はインダス川流域～エーゲ海北岸に，南北はエジプト～ソグディアナに及ぶ広大な領域を支配下に置き，アケメネス朝の全盛期を創出した。

ｂ・ｃ　彼の業績として，新都ペルセポリス宮殿の建設，官僚を用いての中央集権体制の構築，「王の道」（スサ～サルデス）の建設と駅伝制の整備などが挙げられる。広大な領域の統治には，全土を 20 州に分割して各州にサトラップ（総督，知事）を置く形態を採り，その管理は王直属の巡察使「王の目」「王の耳」を派遣することで進めていった。

【4】

解答

問1　a　ヒッタイト　　b　海の民　　c　フェニキア　　d　ヘブライ
　e　シドン（またはティルス）　　f　カルタゴ　　g　モーセ　　h　イェルサレム

問2　アラム人はダマスクスを拠点に，西アジアから中央アジアのオアシス都市を結ぶ内陸貿易を行った。その際，彼らはラクダを荷の運搬に用いて隊列を組み移動する隊商貿易という活動形態をとっていた。このため，アラム語はアケメネス朝支配域も含む西アジア地域一帯の共通語となった。これに伴いアラム文字も交易路に乗って東方に伝わり，ソグド文字など多くのアジア文字の原型となった。(178字)

解説

古代オリエント世界を扱った問題。指定語句付き論述も課されている。論述はまだ書けないから…と諦めてしまうと，その後も書かない癖がついてしまう。初めて書く人にとって論述問題はかなり時間を要する作業になるかとは思う。しかしそれでも，早い段階から書く努力を惜しまず，積極的に取り組んでおきたい。なお，最初から完璧な答案を作ろうと思わないこと。失敗を重ねて，徐々に書けるようになればそれでよい。書き方や論述への取り組む手順などで疑問がある人は，遠慮せず先生に相談すること。

問1　a・b　問題文の最初にある「紀元前13世紀から前12世紀にかけて，東地中海沿岸諸地域は大きな変動の時代を迎えた」という一文は，この時代・地域の特徴を認識するにおいても，解答を導くにおいてもキーフレーズである。この時代以前の紀元前2千年紀中葉の地中海東岸では，小アジアではインド＝ヨーロッパ語系のヒッタイト王国，エジプトでは新王国がそれぞれ勢力を有し，両国は中間のシリアをめぐる争いも起こしている。この2国に対し，民族系統不明の「海の民」による攻撃が加わり，前者は滅亡し，後者は衰退した。さらにギリシアのミケーネ文明も「海の民」の攻撃で繁栄に終止符が打たれたとされる。このように「海の民」の活動は紀元前12世紀の東地中海域の歴史に大きな変動を生むきっかけとなった。

c・e・f　セム語系民族として海上（地中海）貿易で繁栄したフェニキア人は，シリア沿岸にシドン・ティルスなどの都市国家を建てた。さらに彼らは地中海沿岸に多くの植民市を築いた。北アフリカ（現在のチュニジア）の地に，ティルスの植民市として建設されたカルタゴは有名である。他にイベリア半島にマラガ，ジブラルタル海峡を越えてガデス（現在のカディス）などの植民市がフェニキア人により築かれた。

d・g・h　モーセが率いた出エジプトの後，パレスチナ（古名カナーン）の地に民族の統一国家をヘブライ人が築いた。この国家はダヴィデ王と子のソロモン王の時代に隆盛を迎える。ソロモン王は都のイェルサレムに宮殿とヤハウェの神殿を築いたとされる人物。ソロモン王の死後に国家は北のイスラエル王国と，南のユダ王国に分裂した。

問2　セム語系のアラム人はダマスクスを初めとする小王国を建設して，内陸貿易に従事した。隊商貿易に彼らの本領は発揮され，その活動地域はシリアからイラン高原東部にまで及び，中央アジアのオアシス諸都市を結ぶ形で行われた。この貿易ではラクダが活躍するが，アラム人は史上初めてラクダの放牧を行い，隊商に用いた民族である。共通商業言語として西ア

ジアに広まったアラム語は，前４世紀初めにはアケメネス朝の共通語にもなっている。また，アラム文字はソグド文字・ウイグル文字・モンゴル文字など多くのアジア文字の母体となった。

2章　ギリシア世界

問題

【1】

解答

問1　1　q　2　f　3　i　4　g　5　a　6　s　7　p　8　m
9　d　10　l

問2　ア　重装歩兵　イ　陶片追放（オストラシズム）　ウ　ペロポネソス　問3　c
問4　a　問5　b

解説

古代ギリシアの基本的事項を確認する問題。この時代の人名は覚え間違えている場合があるので，念のため用語集や教科書で確認し直しておこう。

問1　1・2　アクロポリスは「城山」の意味で，元来は城砦が設けられたが，紀元前7世紀頃以降は，ポリスの宗教的中心地として神殿が建てられるようになった。アゴラは「広場」の意味で，市民の政治討論の場であり，同時に市の開かれる経済の場でもあり，社交の場であった公共空間のことである。

3　インド＝ヨーロッパ語系のギリシア人は，方言によってアイオリス人・アカイア人・イオニア人・ドーリア人に分類される。イオニア人はアテネ，ドーリア人はスパルタを築いた。

4　ドラコンはアテネの慣習法を集め，これを改正して成文化・施行した人物。法の成文化により，貴族による勝手な法解釈・法独占は終わったが，他方「血によって書かれた法」と言われるように刑罰は非常に過酷なものであり，殺人に関する規定以外は後のソロンの時代に廃止された。

5　アテネでの経済活動の活発化は，借財に苦しむ市民を生み出した。ソロンは借財での奴隷化（債務奴隷）を禁じることで，市民階級の奴隷転落を防ぎ，アテネ市民団の安定に努めた。また彼は市民を財産評価で4等級に分類し，等級に応じて参政権と兵役義務を定めた財産政治の実施者としても有名。

6　ペイシストラトスは古代ギリシアを代表する僭主である。僭主とは非合法な手段で権力を握った独裁者をさす。彼らは前7世紀から前6世紀にその存在が目立つこととなるが，それはこの頃から従来の貴族政治が動揺を始めたことが背景となる。貴族支配を武力で倒し，民衆の支持を得て独裁を行うものが現れるのであった。

7　クレイステネスは部族制改革と陶片追放で有名。部族制改革は，従来アテネで有力であった血縁的な4部族制を廃して地縁的な10部族制を導入し，名門貴族の政治的発言力を弱めることでアテネの民主化に大きく貢献した。陶片追放（ギリシア語でオストラキスモス，英語でオストラシズム）は僭主になる可能性がある者の名を陶器の破片（オストラコン）に刻んで投票させる制度。ただ，時とともに政争の道具として悪用されるようになったので，前5世紀末に中止された。

8　アケメネス朝（前550～前330）の第３代ダレイオス１世の時代にペルシア戦争は開戦した。
9　テミストクレスは，アルコンとして三段櫂船を中心に置く大艦隊を建造し，サラミスの海戦においてアケメネス朝の第４代クセルクセス１世時代のペルシアに勝利した。しかし，のちに彼は陶片追放にあい，ペルシアに亡命することとなった。
10　ペリクレス時代（前443～前429）はアテネ民主政治の完成期とされる。その特徴は，問題文の空欄10前後に書かれているように，貴族・平民の区別なく全成人（18歳以上）男子市民の政治参加が直接民主制の形で実現する点にあった。広く市民の政治参加を可能とするため，官職の多くは抽選制で，任期も１年とされた。
問２　ア　商工業の発展で財をなした平民は，自ら武具を購入して重装歩兵となり，密集陣形（ファランクス）で隊列を組んで戦った。この戦法はそれまで貴族により行われていた重装騎兵同士の一対一の戦法を崩していった。
イ　問１－空欄７の解説文を参照。
ウ　ペロポネソス戦争はアテネ盟主のデロス同盟とスパルタ盟主のペロポネソス同盟が戦ったもの。戦中にアテネでは衆愚政治が広まり，疫病も流行したため国力は弱体化していった。さらにアケメネス朝がギリシア世界の分裂を企図してスパルタ側を支援したこともあり，アテネは敗北した。
問３　９名からなるアテネのアルコン（執政官）は，前487年以降は任期１年で抽選で選出された。よって選択肢ｃの記述は誤り。
問４　カルタゴはフェニキア人の海港都市ティルスが建設した植民市である。選択肢ｂ～ｄに加えて，ネアポリス・ミレトス・タレントゥムをギリシア人の植民市として覚えておけるとよい。
問５　マラトンの戦いはアテネが独力でペルシア軍に勝利しており，選択肢ｂは誤り。

【2】

解答

1　か　2　ふ　3　ひ　4　な　5　て　6　す　7　こ　8　そ
9　み　10　た　11　め　12　ね　13　け

解説

アテネを中心に，古代ギリシアおよびヘレニズム時代を概観した問題。基本的事項が多く問われており，間違えた部分はきちんと復習しておくことが肝要である。

1　アテネにポリスを築いたギリシア人の種族が問われているので，イオニア人が正解となる。アッティカ半島は前12世紀頃のドーリア人の移動の際も比較的変動を受けずにすんだ。
2　やや難。トロヤ（トロイア）戦争に関する記述の部分から，この空欄にあてはまるものは王国の名だとわかるので，ミケーネが正解となる。ミケーネ文明は前12世紀頃のドーリア人の侵入や「海の民」の攻撃によって破壊され，以後ギリシアは暗黒時代に入った。
3　これは基本問題。ホメロスの実在は明らかでないにしても，その代表作とされる『イリアス』と『オデュッセイア』についてはチェックしておきたいところだ。
4　ドーリスとはドーリアの別名である。「紀元前10世紀ごろ」の移動という部分から語群を

検討すればよい。ドーリア人の代表的ポリスはスパルタである。

5　「紀元前6世紀初め」という時代設定，および「市民各自の所有する土地財産に応じて国政への参加の度合いを定め」という部分は財産政治を示しているから，ソロンが正解となる。ソロンの改革（前594）については，他に市民の負債帳消し，債務奴隷化の禁止の2点を押さえておこう。

6　小アジア方面の地理的知識が正確に頭に入っていれば解けるだろう。「ダーダネルス海峡」の背後にある穀物の供給地ということで黒海が正解である。黒海方面は，穀物供給地として押さえておきたい。

7～9　4部族制から10部族制への移行ということでクレイステネスが正解。彼が中心となった改革は前508年に行われている。4部族制は血縁をもととする氏族制の基盤であり，地縁的な10部族制に切り替えることで，貴族政の温床を打破した。彼の民主化政策として他に重要なのが，オストラシズムの創設なので，こちらも押さえておくこと。

10　問題文を正確に追っていけば答が見えてくる。アテネ以外の都市国家で，ペルシア戦争時に指揮権を握るほどの有力なポリスはスパルタ以外に思いつかないだろう。この正答に関しては，ペロポネソス戦争に関する記述からも確認できる。

11　ペロポネソス戦争に関する年代が分かっていれば即答できる。この戦争は前431年に始まり，前404年のアテネの降伏により終了する。ペロポネソス戦争は，ギリシア諸ポリスの衰退に多大な影響を与えた。

12・13　アテネ・テーベを中心としたポリス連合軍をカイロネイアの戦いで破ったマケドニアの国王は，アレクサンドロス大王ではなくその父フィリッポス2世である。フィリッポス2世は，カイロネイアの戦いののち，スパルタを除く全ポリスを治める機関としてコリントス同盟（ヘラス同盟）を結成する。

【3】

解答

(1)　02　(2)　05　(3)　06　(4)　02　(5)　04　(6)　04　(7)　01　(8)　02　(9)　04
(10)　01

解説

ペルシア戦争の成果を継承し，アテネ民主制を完成させたペリクレスが，いつ頃，どこで活躍し，また彼が晩年遭遇した戦争は何という戦争で，どこと戦い，どのように戦争を指導したかなどを問うもの。

(1)～(3)・(10)　ペリクレスの演説は，アテネ出身の歴史家トゥキディデスの『歴史』（ペロポネソス戦争史）に引用されている。戦争勃発の前431年から前430年にかけての冬，アテネ西北の郊外ケラメイコス墓地での戦没者の国葬に際して行なわれた追悼演説である。

(4)　政治参加は国防に貢献する者だけであり，かつ武具は自弁が原則であった当時，アテネの無産市民はペルシア戦争で軍艦の漕ぎ手（武具は必要ない）として活躍，政治参加が可能になり，民主政治は完成に向かった。

(5)・(6)　ペロポネソス同盟の盟主スパルタは農業国で，耕地の破壊は致命的であったので，陸

軍は強力であった。これに対しアッティカを領域とするアテネは海軍が強いので，陸戦を避け，アテネ市と外港ピレウスを囲む城壁内に籠城し，食糧は海外から輸入，海軍でペロポネソス半島を襲って耕地を荒らせば，アッティカ全土を破壊されても勝利は得られる。これがペリクレスの戦略であった。

(7)・(8)　ペリクレスの演説の中で他国の手本として誇らしげに述べられていたのは民主政。少数者の独占を排し，多数者の公平を守る政治体制であると述べている。その民主政下での役人は原則として抽選による選出で，任期は１年制であったが，軍事・財政など専門知識や決断力を必要とする高位の役職は選挙であった。ペリクレスの就いた将軍職は選挙で選ばれており，連年の重任が可能だったため，アテネ民主政や戦争を指導することができたのである。

(9)　前 483 年アッティカ東南のラウレイオン銀山で大鉱脈が発見された時，先見の明に富むテミストクレスは当時の習慣に従って余剰金を市民に分配することに反対，市民を説得して海軍力の充実に用い，サラミス海戦を指導し，その結果ペルシア戦争に勝利をもたらした。

【4】

解答

問１　a　クレタ　　b　ミケーネ　　c　ドーリア　　d　海の民　　e　アゴラ

問２　(1)『イリアス』・『オデュッセイア』　(2)　シュリーマン

問３　アルコン　　問４　ドラコン　　問５　(1)　僭主　　(2)　ペイシストラトス

問６　代議制ではなく，成年男性市民全員が民会に参加する直接民主政であった。成年男性市民の間では政治的平等が徹底されたが，奴隷や女性には参政権は認められなかった。(77字)

解説

基礎～標準レベルの問題。問６の小論述で出題されたギリシアの民主政治の特徴は頻出のテーマである。アテネにおける民主政完成までのプロセスとともに，100 ～ 200 字でまとめる練習をしておくとよいだろう。

問１　a ～ d　前 2000 ～前 1400 年頃には，クレタ島のクノッソスを中心として，クレタ文明が栄えた。前 20 世紀以降，ギリシア人の第１波であるアカイア人がギリシアに南下してミケーネ文明を築き，前 1400 年頃にはクレタの王権も倒した。しかし，ギリシア人の第２波であるドーリア人や，「海の民」と称される民族系統不明の民族の侵攻によってミケーネ文明は破壊され，以後，前 12 ～前８世紀のギリシアは，暗黒時代と呼ばれる混乱期を迎えた。

e　アゴラは中心部にある城山（アクロポリス）のふもとにある中央広場で，交易・裁判などが行われ，ポリスの政治・経済活動の中心であった。

問２　『イリアス』・『オデュッセイア』はギリシア最古の大叙事詩であり，トロイア戦争の英雄たちの活躍を描いたもので，ホメロスの作とされている。ドイツの考古学者シュリーマンはこの著作の内容を事実と信じ，トロイア・ミケーネ地方を発掘して遺跡を発見した。なお，クレタ文明の遺跡を発見したのはイギリスの考古学者エヴァンズである。

問３　前８世紀半ば以降，アテネは王政から貴族政へ移行し，貴族から選ばれた９人のアルコン（執政官）がポリスを統治した。

問４　重装歩兵の要員として活躍し，軍事的に重要な役割を担うようになった平民は，貴族による政権独占に不満を抱いた。こうした中でドラコンは従来の慣習法を成文化し，貴族による法の独占を破った。

問５　民衆の不満を利用し，その支持を得て非合法的に政権を握った独裁者を僭主という。前561年，平民の支持を得て僭主となったペイシストラトスは，土地を再分配して中小農民を保護・育成し，アテネの美化に努めた。

問６　前443～前429年のペリクレスによる統治の下で，アテネの民主政治は完成に至ったとされる。今日の代議制（議会制民主主義）ではなく，政治の最高機関となる民会に成年男性市民全員が参加する直接民主政であり，一部の例外を除いてほとんどの官職が全市民の中から抽選で選ばれた。こうしたアテネの民主政治は他のポリスにも波及した。

しかし，成年男性市民の間で政治的平等が徹底されたのに対して，女性・在留外人・奴隷には参政権が認められなかった。さらにペリクレスの時代には，アテネ市民権は両親ともアテネ出身の18歳以上の男性に限定された。

【5】

解答

①　c　②　e　③　b　④　e　⑤　b　⑥　e　⑦　d　⑧　b
⑨　d

解説

ギリシア文化に関する問題。文化史一般に言えることだが，ただ単に人名と代表的作品を暗記するだけではなく，必ずその背景―政治・経済・社会情勢・宗教など―を理解した上で覚えておくとよい。今回の問題では①・③・④・⑤が，当時の政治や社会情勢と絡めて出題されている。「文化史は受験直前期にまる暗記」と後回しにせず，まだ余裕のある今の時期から，きめ細かく実力を培っておきたい。

①　「富者と貧者の対立を調停」という部分から，アテネの民主政改革に尽力したソロンを選ぶ。

②　やや難。悲劇の起源については諸説あるが，なかでも広く知られているのが今回問われたディオニソス神の祭儀である。ディオニソスは酒とブドウの神で，アテネにおいてはディオニソスを祀る祭儀は毎年春に開催されたことが記録されている。現存するギリシア悲劇・喜劇のほとんどはこうした祭の際に作られた。

③　アイスキュロスは前525年の，ソフォクレスは前496年頃の，エウリピデスは前485年頃の生まれである。ギリシア３大悲劇詩人の名前はこの順序で覚えておくとよい。

④・⑤　喜劇作家アリストファネスの手による『女の平和』は，長年続くペロポネソス戦争に対する平和への欲求を込めて書かれた作品である。このペロポネソス戦争に関連した文化史として，他に押さえておくべき作品はトゥキディデスの『歴史』である。彼は問題文にあるような歴史表現を行い，科学的歴史記述の祖とも呼ばれている。

⑥　ギリシアで作成された陶器は，まずミケーネ文明の影響を受けつつ幾何学文様が発達した。これは前８世紀頃には最盛期に達し，菱形，山形，円形などを複雑に組み合わせた美しいものが作成された。この幾何学文様が衰退し，次に人物画で優れた作品が作られることになる。

⑦　ギリシア彫刻の問題だとフェイディアスを選びそうになってしまうが，ここは代表作からプラクシテレスが正解となる。早とちりしないように気をつけたい。

⑧　難問。大理石はパロス島やナクソス島，アテネのペンテリコン山などで産出されるギリシアの名産品である。パルテノンにもこの大理石が用いられた。

⑨　パルテノンはドーリア式建築物の代表作だが，同じアテネのアクロポリス内に建てられたエレクティオンはイオニア式の建築物なので，注意が必要となる。

【6】

解答

設問１　1　　設問２　3　　設問３　2　　設問４　1　　設問５　1　　設問６　5
設問７　4　　設問８　1　　設問９　2

解説

ヘロドトスの著作を基礎にした問題。作成にあたっては藤縄謙三『歴史の父ヘロドトス』第１章を用いている。復習の際には資料集などの地図を併用し，歴史地理的な感覚を重視してほしい。

設問１・２　古代ギリシアの歴史家にして「エジプトはナイルのたまもの」という言葉を残したヘロドトス（前 485 頃～前 425 頃）は，『歴史』でペルシア戦争について記した。その特徴は，人間の行動を客観的な事実によって記述したところにある。

設問３　そのヘロドトスが生まれたポリスのハリカルナソスは，エーゲ海に臨むイオニア南部カリア地方にあり，これは現在のトルコ南西部に当たる。

設問４　ヘロドトスはペルシア戦争（前 500 ～前 449）の時代を生きた。アケメネス朝ペルシア（前 550 ～前 330）はダレイオス１世（位前 522 ～前 486）が建設した幹線道路「王の道」によって中央集権化の促進をはかった。

設問５　アケメネス朝は小アジアのギリシア人の植民地に貢税や従軍の義務を課したが，これに対してイオニア諸都市は団結して反抗し，ついに前 500 年，反ペルシアの行動に出た。

設問６・７　その頃アケメネス朝は，イラン南西部にある王都スサからトルコ西部のサルデスへと通じる「王の道」を用いて迅速に兵や物資を移動させ，対外遠征を敢行し得る体制にあった。但し，サルデスに一時滞在したヘロドトスは，『歴史』第５巻 52 ～ 53 で，「王の道」を歩き通すと３カ月はかかると計算している。

設問８　ヘロドトスは『歴史』第１巻でメソポタミアのバビロン，およびその歴史を詳しく説明している。現在はイラクの領土内に位置するこの古代都市について彼は，「我々の知る限りでは最も美しく整備された町である」と讃えている。

設問９　古代ユダヤ史上有名なバビロン捕囚（前 586 ～前 538）は，新バビロニア王国（カルデア）のネブカドネザル２世（位前 604 ～前 562）が断行した。

【7】

解答

（1） プラトン　（2） アカデメイア　（3） ソクラテス　（4） タレス
（5） メディア　（6） アリストテレス　（7） マケドニア
（8） ソフィスト　（9） ペリクレス　設問２　C→E→B→A→D

解説

ギリシア思想史に関する教科書レベルの基本的な知識を問う問題。文化史ではあるが，アテネ史を中心とした政治史的知識の有無が重要になってくる。

設問１

（1）・（2） 古代ギリシアで国家による人々の幸福を説き，学校を設立した人物はプラトン（前 427 ～前 347）。彼は著作『国家論』で，知・勇・節制・公正の四大徳を重んじる哲学者（哲人）による少数統治を理想とした。彼に従う人々をアカデメイア学派と称するが，その名称はプラトンがアテネ郊外に設立した学園の名に由来する。彼は「善のイデア」を最高の実在とした。

（3） 前 399 年，国家の神々を否認して青年たちを堕落させたと訴えられて処刑された人物はソクラテス（前 469 頃～前 399）。彼は，自らを知恵を愛する人（フィロソフィスト）と称した。

（4）・（5） イオニアのミレトスで活躍した自然哲学者で日食を予測した人物はタレス（前 624 頃～前 546 頃）である。彼は「万物の根源（アルケー）は何か」と問い，それは実在の物質「水」だとした。また彼は，前 585 年 5 月 28 日の皆既日食を予測した。その頃東方に存在した専制国家はイラン人のメディア（前 8 世紀末～前 550）であり，この国は，前 612 年にアッシリアを滅ぼした後，小アジアへの進出を企図した。

（6）・（7） アテネに学校を開いて実証的研究を行った人物はアリストテレス（前 384 ～前 322）であり，その学校とはリュケイオンである。彼はマケドニア王の侍医の子として生まれたこともあって，マケドニア王国のアレクサンドロス大王（3 世，位前 336 ～前 323）が幼少の頃に学問を講じた。哲学上ではプラトンのイデア論を批判し，個物には「実体」が内在するとした。また彼は学問を自然科学・論理学などに体系付けた。

（8）・（9） プロタゴラス（前 485 頃～前 415 頃）は，「人間は万物の尺度」という相対主義的・主観主義的立場をとるソフィストの代表である。彼らが活躍した時期は，ちょうどペリクレス（前 495 頃～前 429）がアテネ民主政治を完成させた頃と同時代だった。

設問２　古代ギリシア思想史は，自然哲学（C）の時代から，ソフィスト（E），ソクラテス（B），プラトン（A），そしてアリストテレス（D）の時代へと変遷していく。

3章　ヘレニズム・イラン世界の動向

問題

【1】

解答

問1　1　334　　2　イッソス　　3　プトレマイオス　　4　バクトリア
　　5　セレウコス　　6　パルティア　　7　アケメネス　　8　アラム
問2　a　コリントス（ヘラス）同盟　　b　コイネー　　c　ムセイオン

解説

ヘレニズム時代を概観した問題。基本的な内容が多いので，年代などでの失点を防ぎつつ，全問正解をめざしたいところだ。

問1　1・3　ヘレニズム時代（前 334 ～前 30）の区切りとなる東方遠征出発の前 334 年と，プトレマイオス朝の滅亡の前 30 年については，年代と事項をセットで覚えておきたい。

2　「大勝」した相手はアケメネス朝のダレイオス３世をさしていることはわかるが，この空欄に当てはまるのがイッソスの戦い（前 333）か，アルベラ（ガウガメラ）の戦い（前 331）か迷った人もいると思う。しかしこの空欄についてはエジプト平定（前 332）の前の戦い，という時代限定が伴っているので，正答はイッソスの戦いとなる。

4・5　アレクサンドロス大王の死後，小アジアからインダス川に至る広大な地域はセレウコス朝の支配下に入った。この支配領域のうち，アム川上流を含む中央アジアで独立政権を建てたのがバクトリアである。「アム川上流」「紀元前３世紀」から答を絞り込める。

6　「イラン系遊牧民」で「東西交易路の要衝を押さえて」繁栄したのはパルティアである。この王朝の中国名「安息」もよく問われるので注意しておこう。

7　パルティアがイラン系の王朝であったことを想起した上で，「スサを冬の都とした」という部分があるのでアケメネス朝が該当する。前６世紀に大帝国を築き上げたダレイオス１世は新都ペルセポリスを建造したが，依然としてスサは首都の機能を有していた。

8　「交易活動によって西アジアの共通語になっていた」からアラム語が正解となる。古代オリエントにおいて，内陸の交易活動で活躍したのがアラム人，海洋交易で活躍したのはフェニキア人と整理しておこう。

問2　a　カイロネイアの戦いでマケドニアのフィリッポス２世はアテネ・テーベ連合軍を破り，ギリシア支配のためにコリントス同盟を創設した。

b　「ギリシア人植民都市」ということで，ヘレニズム時代に広く使用されたギリシア語の共通語，コイネーが正解となる。『新約聖書』もコイネーで書かれている。

c　ヘレニズム時代には自然科学が隆盛し，その中心は，プトレマイオス朝の首都アレクサンドリア市にあるムセイオンであった。これも頻出事項である。

【2】

解答

設問１　１　ペルシア風（東方，オリエント，東方君主，君主など）

　　２　アレクサンドリア　　３　ペルガモン　　４　パルティア　　５　バクトリア

設問２　クレオパトラ　　設問３　パルティア王国

解説

ヘレニズム時代とその文化の東西への伝播についてまとめた問題。内容は基本的だが，文章自体がよく練られているので，知識補充の１つとしてじっくり読み，内容の理解に努めておきたい。

設問１　１　山川出版社の『詳説世界史研究』では，「アレクサンドロスはオリエントの専制君主であったペルシア王の後継者として振るまうようになり，王の神的権威を強めていった。マケドニア人のなかにはペルシア風の跪拝礼（プロスキュネシス）を拒否して処刑されるものも現れた」と述べられている。この問題では礼拝の形式が問われており，この点から考えれば上記の「ペルシア風礼拝」が最適となる。この場合，ペルシアとはギリシアから見れば東方，オリエントに位置するから，同じ意味合いから東方，オリエントなどでも正解となる。

一方，三省堂の『世界史Ｂ』では「オリエント風の専制国家をつくろうとしたが，新しい体制がととのわないうちに，大王は若くして病死した」と述べられているが，この文章の「オリエント風の専制国家」という部分を重要視すると，空欄部分について，東方（オリエント）的な専制君主として部下から崇められる，という解釈も可能となる。よって，東方君主，もしくは君主そのものでも正解とする。

２　アレクサンドロス大王の死による帝国の３分裂以後，エジプトはプトレマイオス朝が支配した。これはギリシア人が支配する王朝である。その首都アレクサンドリアは経済・文化の一大中心地としてヘレニズム時代にその繁栄ぶりを誇った。ヘレニズム時代にはアレクサンドリアやアンティオキアが各地に建設されたが，その中で代表的なものが，このプトレマイオス朝の首都と，セレウコス朝の首都である。受験世界史ではもっぱらこの２つを覚えておけばよい。

３～５　セレウコス朝の分裂に関する問題。３には「小アジア」に成立したセレウコス朝から独立した王国が，４には「カスピ海南東のイラン系遊牧民」が建国した王国が，５には「中央アジアのアム川流域のギリシア系民族」が建国した王国が，それぞれ当てはまることになる。３のペルガモンはやや細かい事項であるが，４のパルティア，５のバクトリアは必ず答えられるようにしておきたい。ちなみに４の場合，中国名の安息でも構わないのだが，問題設定が（　４　）王国となっているので，パルティアの方がより適切な解答といえるだろう。

設問２　プトレマイオス朝最後の女王，すなわちクレオパトラが正解となる。彼女はローマのアントニウスと結び，ローマのオクタウィアヌスとアクティウムの海戦（前 31）で対峙したがこれに敗れ，前 30 年に自殺した。

設問３　下線部ｂの「三国」とは，ペルガモン王国，パルティア王国，バクトリア王国をさす。このうち「ローマと抗争」し，「ローマに服属しなかった」という２つの条件を満たすのはパルティア王国だけである。ペルガモン王国は前３世紀にセレウコス朝から独立したが，東

のセレウコス朝，西のマケドニアと強国に挟まれていたため，ローマと同盟を結んで安全をはかった。前２世紀に王国がローマに寄贈されると，幅広い層による反ローマ闘争が開始されたが，ローマに鎮圧され，その属州となった。その後も属州の主要都市として存続している。パルティア王国は前２世紀末頃からメソポタミアを中心にローマとの抗争を繰り返したが，後３世紀に入るとササン朝の攻撃を受け，クテシフォンが陥落して滅亡した。バクトリア王国は前 255 年頃にセレウコス朝から独立したギリシア人国家で，マウリヤ朝の衰退に乗じてインダス川流域のインド北西部にまで進出したが，その後内紛で衰え，西隣のパルティア王国，北方のスキタイの圧迫を受け，スキタイ系のトハラ人によって前 139 年に滅ぼされた。よってローマと直接・間接的な関係はない。また，地理的に見てもローマとは直接に境を接してはいない。

【3】

解答

問Ａ　a　フィリッポス　b　アケメネス　c　アンティゴノス　d　プトレマイオス
e　アレクサンドリア　f　ムセイオン　g　アルキメデス　h　ストア

問Ｂ　ア　ディアドコイ　イ　安息

解説

ヘレニズム時代とその文化についてまとめた問題。全問基本的な内容なので，しっかりと正解したい。文化については，活躍した人物・事績（著書含む）・出身地をセットで押さえるようにしておこう。

問Ａ　a　フィリッポス２世（位前359～前336）は，前338年のカイロネイアの戦いでアテネ・テーベ連合軍を破りギリシアを制圧するなど強盛を誇ったが，貴族に暗殺された。

b　アレクサンドロス大王（位前 336 ～前 323）は，前 333 年イッソスの戦いでアケメネス朝のダレイオス３世（位前 336 ～前 330）を破り，さらに追撃を加えてアルベラの戦い（前 331）でも圧勝した。アルベラの戦いの翌年にダレイオス３世は家臣に暗殺され，アケメネス朝は滅亡した。

c・d・問Ｂ－㈠　アレクサンドロス大王の死後，ディアドコイ（後継者）と称する部下の将軍たちが分立・抗争した。その結果，前４世紀末には，アンティゴノス朝（マケドニア），セレウコス朝（シリア），プトレマイオス朝（エジプト）の３国が並び立つこととなった。

e・f・g　プトレマイオス朝の首都アレクサンドリアは，前 331 年アレクサンドロス大王によって建設され，ヘレニズム世界の中心地として繁栄した。アレクサンドリアには大研究機関であるムセイオンが開設された。とくに自然科学の分野においては，地球の周囲の長さをほぼ正確に測定したキュレネのエラトステネス，太陽中心説を提唱したサモスのアリスタルコス，平面幾何学を大成したアレクサンドリアのエウクレイデス，浮体原理など物理・数学における数々の法則を発見したシラクサのアルキメデスなど，多くの著名な学者が輩出した。

h　ヘレニズム世界においては，ポリス的なギリシア人の民族意識が希薄になり，個人主義的・世界市民主義的な思想が広まった。ゼノンに始まるストア派は，個人の心の平安とそれを達成するための克己禁欲を説いた。

問Ｂ　(イ)　パルティアは内陸アジアの隊商路およびペルシア湾を押さえ，東西交易によって大きな利益を上げた。漢ともシルクロードを通じて交易を行い，漢はパルティアを中国名で安息と呼んだ。

W3M
早慶大世界史

Z-KAI

会員番号	

氏　名	

不許複製